

# 認知症の人への接し方

認知症に伴う認知機能の低下があることを正しく理解していることが必要です。偏見をもたず、認知症の人を支援するという姿勢が重要になります。

## ～基本姿勢～

### 認知症の人への接し方の心得 3つの「ない」

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない

認知症の障害を補いながら、さりげなく、自然に、が一番の支援です。

## ～具体的な対応の1つのポイント～

### ●まずは見守る

認知症と思われる人に気づいたら、本人や他の人に気づかれないように、一定の距離を保ち、さりげなく様子を見守ります。近づきすぎたり、ジロジロ見たりするのは禁物です。

### ●余裕をもって対応する

こちらが困惑や焦りを感じていると、相手にも伝わって動揺させてしまいます。自然な笑顔で応じましょう。

### ●声をかけるときは1人で

複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ1人で声を掛けます。

### ●後ろから声をかけない

一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけます。唐突な声かけは禁物。「何かお困りですか」「お手伝いしましょうか」「どうなさいました?」「こちらでゆっくりどうぞ」など。



### ●相手に目線を合わせて優しい

#### 口調で

小柄な方の場合は、体を低くして目線を同じ高さにして対応します。

### ●おだやかに、はっきりした話し方で

高齢者は耳が聞こえにくい人が多いので、ゆっくり、はっきりと話すように心がけます。早口、大声、甲高い声でまくしたてないこと。その土地の方言でコミュニケーションをとることも大切です。

### ●相手の言葉に耳を傾けてゆっくり

認知症の人は急かされるのが苦手です。同時に複数の問いに答えることも苦手です。相手の反応を伺いながら会話をしましょう。たどたどしい言葉でも、相手の言葉をゆっくり聴き、何をしたいのかを相手の言葉を使って推測・確認していきます。



出典:認知症サポーター養成講座標準教材

東根市社会福祉協議会 認知症地域支援推進員